30周年記念誌

30th Anniversary

夢への挑戦

かたるべ会３０年の歩み

基　本　理　念

社会福祉法人「かたるべ会」は障碍がある無しに関わらず、
社会人として普通に暮らせる社会（ノーマライゼーション）の実現に向け活動します。
また、仕事（社会参加）、生活（衣食住）、余暇という生活のリズムがバランスよく保たれ、
メリハリのある生活が確保されることも重要です。

＜仕事＞

＊全員「社会的労働」に向け活動します。
＊仕事は社会人としての義務です。積極的に仕事に参加します。（やれることはやる）
＊適材適所の「社会的労働」を追求します。
＊障碍の種別や程度を問わず「社会的労働」を追求します。

＜生活＞

＊グループホーム、一人暮らし、結婚など、普通の生活を実現します。
＊親や福祉に生かされるのではなく、自分で生きることを援助します。
＊精神的自立、経済的自立を実現します。

＜余暇＞

＊自分の意思で、自分の時間を自由に過ごせる環境を実現します。
＊地域の中で普通に利用できる余暇環境と人間関係の実現。

＜援助のあり方＞

障碍者と職員の関係を含め、人と人の関係は対等です。
しかし、障碍者が社会の中で普通に暮らす為には援助が必要な場合があります。
その援助のあり方は「指導・教育・訓練」ではなく、
「おおらかな対応」と「細やかな配慮」です。
現状は大変厳しい社会です。
障碍者が地域の中で普通に暮らすためには、多くの壁が存在しています。
かたるべ会は、その壁の一つ一つを壊しながら、普通に暮らせる環境を開拓していきます。
そして、その力の源は、「現状の社会に対する強い問題意識」と、
人が人として大切にしあえる社会の実現をしようとする「心」と「行動力」です。

かたるべ会　理事長　平野　章

１９９０年８月１日、６名で始めた「かたるべ会」ですが、３０年たって３００名を超える組織となりました。
かたるべ会は、「普通に働き」「普通に生活」することを中心に活動してきました。
「就労」「結婚」「子育て」、そして現在では「職域開拓」や「新しい生活様式での仕事と生活」、そして最も重要な「相互理解の持てる社会づくり」に力を入れています。
地域社会での相互理解はもちろん、職場内、家族内、夫婦での相互理解（信頼関係）が大切であると考え活動しています。
一人一人が認め合い、尊重しあえる社会。一人一人が大切にされる社会を目指します。
かたるべ会は今後も挑戦し続けます。
今後も、ご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

かたるべ会　３０年のあゆみ

１９９０年　８月	かたるべ社　開設
１９９４年　４月	第２かたるべ社　開設
１９９４年　４月	グリーンハイツ　開設
１９９７年　４月	ビーンズ　開設
１９９８年　４月	アムール　開設
１９９９年　４月	ハイツマモル　開設
２００２年　４月	フォレスト　開設
２００３年１０月	社会福祉法人かたるべ会　法人認可
２００５年　４月	セルフィッシュ　開設
２００９年　４月	アローズ　開設
２００９年　８月	第２ビーンズ　開設
２０１０年　４月	第３かたるべ社　開設
２０１０年　４月	短期入所事業　開設
２０１１年　２月	第２グリーンハイツ　開設
２０１２年　３月	アポロ　開設
２０１３年　３月	ジャスパー　開設
２０１３年　３月	ジャスミン　開設
２０１４年　１月	かたるべ地域相談室　開設
２０１４年　３月	マモルハウス　開設
２０１５年　３月	スカイ　開設
２０１６年　３月	フラット　開設
２０１７年　４月	うれしの　開設
２０１８年　３月	フレンズ　開設
２０２０年　３月	ビット　開設

カルチャーチェンジ指針

～否定される文化から、肯定する文化へ～

（１）強みに注目し、弱みに注目しない
（２）違いを認め合う（スキル、価値観、宗教・・・）
（３）遊び心を取り入れ、楽しく、生き生きと
（４）円滑なコミュニケーション（否定せず、肯定しあう）
（５）挑戦！発見！新しい自分、そして社会！

かたるべ会の誕生

１９７２年

かたるべ会の原点

『誰もが自分を認めてほしい』

１９７８年

理事長　平野の卒業論文

『精神薄弱児（者）、隔離、収容から共に生きる場への展望』

＜時代背景＞

当時、知的障碍者は「精神薄弱者」と呼ばれていた。

その後、「知恵遅れ」→「知的障碍」と変化していった。

そして、障碍者施設は人里離れた山奥にあるのが当たり前だった。

地域の中や駅前などには無かった。グループホームもまだ無い時代だった。

障碍者の行き場は少なく、地域や親族にも障碍者がいることは隠されることもあった。

１９９０年８月　［創立記念日　８月　１日］

理事長　平野の自宅から、**かたるべ会**が始まった。

開設のきっかけは、当時平野が勤めていた中小企業が香港へ工場移転する話があり、

１０名の知的障碍者と５名の精神障碍者が失業することになった。

何名かは再就職先を見つけることができたが、

再就職できなかった４名の知的障碍者の進路先として、かたるべ会を立ち上げた。

この頃、社会福祉法人同愛会の髙山理事長のご厚意により、

同愛会の事業所である「幸陽園」をお借りして準備を進めることができた。

しかし、当時仕事中心の作業所は少なかった。

行政が作業所に求めていたことは、生活訓練や余暇活動であった。

そのため、補助金は出せないとのことから、個人事業所として開所する。

（仕事中心という考え方は受け入れられず、多くの批判もあった）

障碍がある無しに関わらず、仕事を通して社会に参加するということを大事にした。

社会は様々な人が働いていて、成り立っている。人は生きるために働く。

１９９１年４月

その後、仕事中心としての活動が認められ、横浜市障碍者地域作業所として補助金を受ける。

（当時、年間６５０万円／障碍者１０名）

ソニーのスピーカー、組み立て作業等をしていた。

第１回　**かたるべ社**入社式を平野自宅で行う。

１９９１年５月

障碍者地域作業所として、鴨居に移転する。（現在の**第１かたるべ社**）

当時、市議会議員であった丹野さんのご協力もあり、こちらの場所を紹介していただいた。

鴨居駅前のとても通いやすい、地域の中にある作業所になった。

開所式の会場は近くの駐車場。（あおぞら開所式）

１９９４年４月

第２かたるべ社　開設　（当時、場所は小机）

日　中　事　業　所　①

かたるべ社　開設

１９９０年　８月

仕事中心の作業所として、平野の自宅にて開設。時代背景として、作業所の役割は生活介護色が強い中、仕事中心という考えが受け入れられず、多くの批判を受ける。補助金は出せないとのことから、個人事業所として開所する。

第１かたるべ社

１９９１年　４月

横浜市障碍者地域作業所として、補助金を受ける。
仕事中心の作業所に対して多くの批判を受けるが、
個人事業所として７ヶ月間の活動が認められる。
年間６５０万円／障碍者１０名。

第１かたるべ社　鴨居に移転

１９９１年　５月

障碍者地域作業所として、鴨居に移転。
現在の第１かたるべ社の場所。

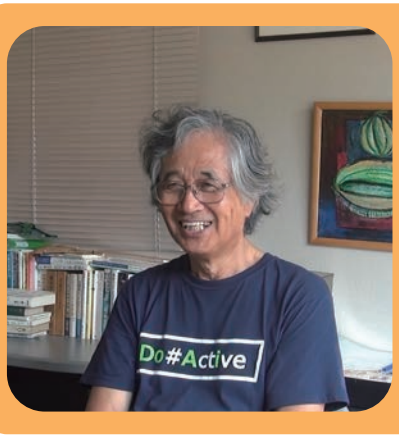
作業風景の様子。

第２かたるべ社　開設

１９９４年　４月

障碍者地域作業所として、小机に開設。

かたるべ会　設立当時を知る人たち



社会福祉法人同愛会　理事長

髙山　和彦

平野さんは横浜の障碍福祉の開拓者の一人、そしてかたるべ会はチームとしてその障碍福祉を担ってきた一翼です。それが独自な分野を切り拓いてきたと思っています。「障碍の有無に関係なく、人間として生まれてきて良かった、そして人間らしい人生を地域の中で実現したい」という想いを、ブレることなく今日まで続けてきたことが、かたるべ会の大きな柱になっていると思います。
横浜の支援をしている団体として、最先端を走っている団体です。

かたるべ会　副理事長

丹野　貞子

平野さんとは共通の知人がいて、居酒屋で出会いました。自宅で作業所を始めることも聞いていて、気になっていました。自分の選挙事務所を譲ってほしいと言われた時にも、一緒に商店街に挨拶に行き（挨拶は大事）、共感してもらえたし、とにかく「やっちゃえ！」という感じでしたね。今思うと、よくやったなという感じ。あと印象に残っていることは、サファリパークに泊りがけの旅行に行ったこと、純粋に楽しかったし、かたるべ会の一員として、気を使わずにいられましたね。

横浜市社会福祉協議会

小野　広久

平野さんが「作業所を作りたい」と事務所に来られたのが最初の出会いでした。ただ、当時の横浜市の作業所は重度の障碍者の行き場として考えていたので、仕事中心の作業所は受け入れられず、話し合いを重ねました。
今でこそ、作業所で働くということは当たり前ですが、当時は違ったので、作業所の在り方について一石を投じてくれたのは平野さんです。
私もかたるべ会が好きだったので、よく遊びに行って手伝っていました。

養護学校教諭

三島　賢治

かたるべ会は強い理念性を持ち、行き場確保だけではない作業所の一つでした。仕事にこだわっていて、税金が免除になるのに確定申告をしていたことにはとても驚いたことを覚えています。よく作業所に出入りしていて、ふらっと寄ったら、「工場に納品してほしい」と頼まれたこともありました（笑）
また、当初は「生活支援センターかたるべ社」という名前で、生活面の支援も考えられていて、数年後にグループホームができたことも驚きましたね。

第２かたるべ社 ジャスミン ＋ 第３かたるべ社 うれしの

１９９６年４月

第２かたるべ社　鴨居に移転。（現在の場所）

２０１０年４月

第３かたるべ社　開設。

２００８年に起きた“秋葉原無差別殺傷事件”がきっかけであり、
社会に生きづらさを抱えている人のために、居場所作り支援として始めた。
この時は発達障碍等、障碍者手帳がない方がほとんどであったため、横浜市の補助事業である、
「地域活動支援センター作業所型」として開所。障碍者手帳の有無に関わらず、受け入れをした。

＜時代背景＞

＊秋葉原無差別殺傷事件

２００８年６月８日、千代田区外神田のＪＲ秋葉原駅近くで事件発生。
歩行者天国となっていた横断歩道に２ｔトラックが突っ込み、通行人を５人を撥ね、
車から降りた容疑者が持っていたダガーナイフで次々と通行人を殺傷。
この事件により７人が死亡、10 人が重軽傷を負う大惨事となった。
犯人には生育歴に課題があり、社会との繋がりがなかった。

２０１０年４月

短期入所　開設。（第３かたるべ社に併設）

様々な家庭環境で生活している人がおり、生活支援の必要性を感じて始めた。

２０１３年４月

ジャスミン　開設。（企画提案制度から始まった事業所）

当時、リーマンショックや東日本大震災等の影響により、
長引く不況の中、受注作業だけでは仕事が足りなくなっていた。
そこで、新たな仕事の開拓が必要となり、職域開拓を目的に企画提案を全職員で取り組んだ。

・２０１０年　D-1 グランプリ　エアギターで準グランプリを受賞
・２０１４年　D-1 グランプリ　劇団かたるべ一座が「ラーメン屋の生涯」でグランプリ受賞
・２０１５年　D-1 グランプリ　ジャスミンが喜劇「ジャスミンの救世主」でグランプリ受賞
・２０１６年　D-1 グランプリ　ジャスミンが喜劇「トゥーランドット」でグランプリ受賞
・その他、大学などでの講演活動や取材活動・ドキュメンタリー制作活動を継続中

＜時代背景＞

＊リーマンショック

２００８年にアメリカの会社を発端とした、世界金融危機。

＊東日本大震災

２０１１年３月に東北地方で起きた大地震。地震による津波や原発事故等も起きた。
死者は約１６，０００人。現在も行方不明者がいる。

２０１７年４月

うれしの　開設。

完全バリアフリー施設であり、他事業所では受け入れが難しかった車イスの方も働いている。
放課後等デイサービスも開設し、小学校１年生から高校３年生までの児童の居場所となっている。

日　中　事　業　所　②

第２かたるべ社　鴨居に移転

１９９６年　４月

第３かたるべ社　開設

２０１０年　４月

２００８年に起きた“秋葉原無差別殺傷事件”がきっかけであり、社会に生きづらさを抱えている人のための、居場所作り支援として始めた。

短期入所を併設

２０１０年　４月

社会に生きづらさを抱えている人たちの中には、様々な家庭環境が背景にあり、生活支援も必要と考え、併設した。

＊現在は障碍の有無に関わらず、自立に向けて誰でも気軽に利用している。生活に関する相談、援助も行う。

ジャスミン　開設

２０１３年　４月

新しい職域開拓を目的として、立ち上げた事業所。

自主製品（肉まんや月餅等の菓子製造）の他にも、

喜劇や太極拳・取材活動を始めた。

うれしの　開設

２０１７年　４月

生きがいの持てる人生に向けた活動をしている。

また、児童放課後等デイサービスを開始した。

健康食と適度な運動、音楽や対話を通して、信頼関係を深め、心の安定を図る取り組みをしている。

就労支援

１９９２年

ワーナーランバート株式会社　横浜パッケージセンターの開所に協力する。
（現在のファイザー株式会社）
かたるべ会から、５人の知的障碍者と平野がワーナーランバートに転職。
当時は障碍者雇用＝障碍者からの搾取というイメージ。企業で虐待の報道もあった。
そのような背景もあり、「企業に協力することは賛成できない」と多くの批判を受ける。

＜時代背景＞
１９９５年、茨城県水戸市で知的障碍者に対する虐待事件（水戸事件）があり、
１９９８年にはドラマ化した「聖者の行進」が話題となる。

反対意見もあったが、かたるべ会から５人の知的障碍者と平野がワーナーランバートに転職。
立ち上げだったため、事業所の場所探しから始め、積極的に社内営業をして、仕事を確保した。
そして、社内で信頼してもらうために仕事は断らず、品質管理にはこだわり、納期は必ず守った。
おかげで信頼を得て、安定して仕事を任されるようになった。

２０００年

ワーナーランバート株式会社はファイザー株式会社と合併。
ファイザー株式会社　横浜パッケージセンターは安定的な障碍者雇用を進め、２０１７年には
３５名の知的障碍者と１０名の精神障碍者を雇用し、模範的な障碍者雇用事業所となった。
ハマライゼーショングランプリも受賞している。
＊ハマライゼーション
障碍のある人を雇用し、障碍のある人が働きやすい職場環境を作るための努力や独自の工夫を
おこなっている企業を横浜市が表彰し、その取り組みを紹介する事業。

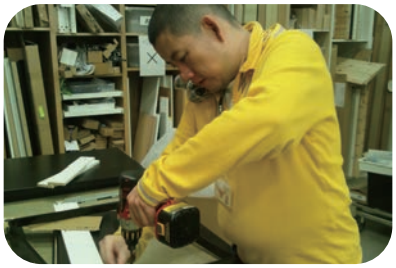
２０１２年

工藤建設株式会社
当時、障碍者雇用で困っていた担当者から相談があり、協力をしたことがきっかけ。
かたるべ会社員３名と職員１名が一緒に工藤建設へ転職をした。
有料老人ホームの清掃を中心に仕事が始まり、調理の仕事まで幅が広がっている。

２０２０年

現在、障碍の程度に関わらず、様々な企業で、様々な職種で働いている。
軽作業・清掃・洗浄・家具組立・事務補助・ピッキング・梱包・炊飯・カート回収・品出し等、
一人ひとりの強みを活かした仕事をしている。また、定年退職をする方も増えている。
そして現在、職域開拓として柔軟な働き方を模索し、新しい仕事にチャレンジしている。
具体的には清掃や販売、演劇や音楽活動等を仕事にしている。

事務補助


家具組立

就　　労　　支　　援

ワーナーランバート株式会社

１９９２年　６月

ワーナーランバート株式会社　横浜パッケージセンターの開所に協力。時代背景として、障碍者雇用＝障碍者からの搾取、虐待の意識が蔓延する中、企業に協力する事は賛成できないという多くの批判を受ける。

５人の知的障碍者と平野が、
ワーナーランバート株式会社に転職をする。

ファイザー株式会社と合併

２０００年

ワーナーランバート株式会社は、ファイザー株式会社と合併。横浜パッケージセンターは安定的な障碍者雇用を進め、模範的な障碍者雇用事業所として成長した。
２００７年には、横浜市長表彰受賞もした。

工藤建設株式会社

２０１２年

障碍者３名と職員１名が、かたるべ会から転職をする。
有料老人ホームの清掃から、障碍者雇用がスタート。

横浜パッケージセンター　２５周年

２０１７年

設立２５周年記念セレモニーが行われた。
４０名以上の身体・知的・精神障碍者が働き、主に販促資材の印刷・梱包・仕分け・発送などの仕事をしている。
式典では支援学校や横浜市から感謝状が贈られた。

障碍者雇用に協力した人たち

元ワーナーランバート株式会社　人事

相馬　克己

かたるべ社から雇用することになったのは、当時作業を頼む繋がりがあり、知っている作業所から雇用しようと考えていたことがきっかけでした。
障碍者雇用の面接も平野さんと一緒にしていました。パッケージセンターは、重度の人を採用することも役割の一つということを話し合った思い出があります。
また、障碍があっても接している方の中には人生の先輩もいたわけで、「さん」付けで呼んでいました。普通の会社と同じようにということは意識していましたね。

元ファイザー株式会社　人事

間瀬　悟

平野さんと仕事をしていて、障碍者雇用には環境作りが大切だと分かりました。彼らの凄いところはミスが無かったですね。一度覚えると、完璧にこなすんです。
ファミリーデーがあり、ご家族を会社に招くのですが、働いている姿や楽しんでいる姿を見てもらいたかったですね。ご家族はとても喜んでいました。一般の人と同じ機会をと思い、その日の夕方にはみんなでお酒を飲みました。
障碍があっても健常者であっても、同じ人ということを実感しました。

ファイザー株式会社　スタッフ　（元かたるべ会　職員）

新井　由香子

最初はどう関わっていいか、まったく分からなかったですね。休憩時間にあるメンバーさんが好きなアーティストの写真を見せてくれて、それがきっかけで普通に関わればいいんだと気付きました。バーベキューをやった時には、子どもとその友達も誘って参加したり、近所の人を呼んだりして、知ってもらっていました。
転職したきっかけはフォークリフトを運転する人が必要だったので、立候補してから免許を取りました（笑）仕事だけではなく、余暇も一緒に楽しんでいます。

工藤建設株式会社　スタッフ　（元かたるべ会　職員）

福田　政弘

障碍者雇用の話があり、かたるべ会のメンバーと一緒に転職をしました。清掃の仕事から始まったのは、清掃スタッフが辞めたことがきっかけです。
全く分からなかったので、一から部屋の清掃を教えてもらいました。大変なこともありますが、仕事が認められてくると、メンバーが入居者の方から名前で呼ばれることも増えてきました。清掃の仕事は“誰かがやればいい”から、”やってとても助かる”と仕事の価値が変わってきたことを実感しています。

職域開拓

新しい仕事へのチャレンジ！

２０１３年　地域清掃活動
行政の委託による清掃活動
現在も公園や歩道、駅前等をしている

２０１３年　肉まん・月餅製造
法人内では初めての食品製造
近隣企業や施設等で販売をしている

２０１４年　講演活動
大学の授業で講師としての仕事
毎年４～５校から依頼がある

２０１６年　D-1 グランプリ
喜劇「トゥーランドット」
グランプリ受賞

２０１７年　うれしのキッチン
健康に配慮した食品製造を開始
クッキーやピザ、おからケーキ等

２０１８年　森と水の祭り
うれしのが製造した商品を販売
一般のイベントで相互理解を深めた

２０１９年　横浜にぎわい座
演劇公演「自己紹介」
プロの役者と共演

２０１９年　バリアフリーコンサート
ウィーアーリトルゾンビーズの主題歌
バンジョークラブが長久允監督と演奏

２０１９年　大日本プロレス
リングアナウンサーの職場体験
清掃やコラボ商品の開発もしている

２０１９年　東京藝術大学　DOOR
「アート× 福祉」をテーマにした活動
多様な人々が共生できる社会をつくる

２０１９年　東京藝術大学　DOOR
当事者との対話
ーダイバーシティ実践論ー

２０２０年　小学校清掃活動
初めての学校内での仕事
学校内の職域が広がるチャンス

生活支援

１９９４年４月

最初のグループホーム、**グリーンハイツ**開設。（当時、都筑区見花山）
しかし、仕事と生活は分けて活動するべきという理由から、
作業所がグループホームをつくるべきではないという批判を受けることもあった。
説明を繰り返し、後援会の協力もあり、グループホームを開設することができた。

＜グループホーム開設の背景＞

理事長　平野が中小企業で働いていた頃の話。
親が転勤になって引っ越したり、亡くなったりすると、
障碍者本人も仕事を辞めざるを得なかった。
親がいなくなっても、その地域に生活する場所があれば、仕事を続けられた人がいた。
そこで、グループホームの必要性を感じていた。

２０２０年４月

その後、一軒家タイプのグループホームの他に、夫婦世帯を含む二世帯住宅や、
アパートタイプのグループホーム等を開設し、かたるべ会には１６のグループホームがある。

個々の必要に応じた生活支援のもと、地域で安心して暮らせる社会を実現している。
具体的には、門限なし、仕事帰りに寄り道したり、遊びに行ったり、過剰な管理はせず、
社会人として当たり前に一人ひとりの生活を大事にしている。
また、各ホームがそれぞれの自治会活動にも参加し、地域の中で当たり前に生活をしている。

そして、生活支援はグループホームに限らず、一人暮らし支援もしている。
定期的な訪問やグループホームでの食事の機会等があり、
必要に応じて、金銭管理や通院・役所の付き添い等をしている。

一人ひとりに合わせて、一人ひとりが地域生活を送るための支援をしている。

１９９４年
当時のグリーンハイツ

食事の様子

グループホーム

１９９７年４月
ビーンズ

１９９８年４月
アムール

１９９９年４月
ハイツマモル

２００１年４月
フォレスト

２００５年４月
セルフィッシュ

２００６年
グリーンハイツ移転

２００９年４月
アローズ

２００９年８月
第２ビーンズ

２０１１年２月
第２グリーンハイツ

２０１２年３月
アポロ

２０１３年３月
ジャスパー

２０１４年３月
マモルハウス

２０１５年３月
スカイ

２０１６年３月
フラット

２０１８年３月
フレンズ

２０２０年３月
ビット

結婚、子育て支援

１９９１年

知的障碍者の結婚を支援。

障碍者は責任能力が低いため、結婚は難しいのではという多くの反対意見を受ける。

関係者との話し合いを重ねた結果、皆さんの合意を得る。

親戚、関係者が参列し、ホテルにて結婚式を挙げる。

アパートで結婚生活がスタート！

食事、病院、金銭管理などの支援をする。

１９９９年

同棲生活をし、本人・関係者と話し合いを重ね、結婚する。

二世帯住宅のグループホームで結婚生活を支援する。

食事、病院、金銭管理、性生活に関する支援をする。

２００５年

子育て支援。

知的障碍がある女性の出産について、様々な意見が出る。反対意見もあった。

本人と親御さん、職員、教員等の関係者で２週間毎日話し合いを行う。

最後は本人の「生みたい」という気持ちを大事にして、応援することになった。

中心になって支援をする職員が名乗り出た。

２００６年

横浜市の中田市長が、かたるべ会を取材。（TVK のテレビ番組「Hi 横濱編集局」）

就労支援と結婚支援、子育て支援について放送された。

２０１４年

二世帯住宅のグループホームで同棲生活を始め、結婚生活を送っている人もいる。

結婚式

ケーキ入刀

「Ｈｉ横濱編集局」

かたるべ会の生活支援

余暇支援

１９９５年

移動支援事業として、「横浜ウォーカーズクラブ」を独自に始める。（補助金なし）

２０００年

○生活本舗事業

休日になかなか家から出て来られない方、家族と外出することが多く、なかなか仲間と一緒に遊びに行けない方が参加しやすい様々なイベントの企画を提供している。
休日の過ごし方がマンネリ化している方も外出経験の機会を増やし、
余暇の幅が広げられるように取り組んでいる。
フットサルやゲームサークル等のサークル活動も定期的に開催している。

２０１１年

○移動支援事業

移動支援とは外出時のお手伝い（ガイドヘルパー利用）を目的とした事業。
趣味嗜好は個々によって違うため、個別の余暇をコーディネートしている。
休日にどう過ごしたらいいのか分からない方や、
一人では出掛けられない場所に行ってみたい方、
日常生活の買い物の付き添いをしてほしい方等、
その他、どんな理由でも余暇に関する相談を受けている。

自分の意志で自由に過ごせる環境を実現する。

カラオケランチ

ゲームサークル

バーベキュー

フットサル

旅行

１９９１年　サンリオピューロランド

１９９１年　真鶴サボテンランド

１９９２年　旅行

１９９４年　岡崎城観光記念

１９９４年　八景島シーパラダイス

１９９５年　向ヶ丘遊園

１９９５年　群馬サファリパーク

１９９６年　東京ドーム

１９９７年　浅草

１９９７年　伊豆三津シーパラダイス

２００７年　マザー牧場

２００７年　ホノルルマラソン

２００８年　ホノルルマラソン

入社式

１９９１年　第1回

１９９２年　第2回

１９９３年　第3回

１９９４年　第4回

１９９５年　第5回

１９９６年　第6回

１９９７年　第7回

２００３年　第１３回

２００８年　第１８回

２００９年　第１９回

２０１０年　第２０回

２０１１年　第２１回

２０１２年　第２２回

２０１３年　第２３回

２０１４年　第２４回

２０１５年　第２５回

２０１６年　第２６回

２０１７年　第２７回

２０１８年　第２８回

２０１８年　スペシャルゲスト
萩本欽一さんからのメッセージ

２０１８年　演出
ひつじたちが入社式を盛り上げた。

２０１９年　第２９回

研修

２００８年　バングラディッシュ研修

２００８年　バングラディッシュ研修

２００８年　バングラディッシュ研修

２００８年　バングラディッシュ研修

２００９年　タグラグビー研修

２０１０年　２０周年　感謝の集い

２０１０年　２０周年　宿泊研修

２０１０年　２０周年　宿泊研修

２０１０年　２０周年　宿泊研修

２０１０年　中国訪問
障碍者団体連合会　訪問

２０１０年　中国訪問
障碍者団体連合会　訪問

２０１１年　中国との交流
障碍者団体連合会　訪日

職員全体研修

グループワーク中心の参加型研修

２０１１年　７月　２日（土）『元気玉を探そう』
２０１２年１２月　８日（土）『幸福な人とは・・・障碍者の問題は自分の問題』
２０１３年　３月１６日（土）『内観』
２０１３年１２月　７日（土）『たいせつなひとたち』
２０１４年　３月１４日（土）『たいせつなひとたち』
２０１４年１２月　６日（土）『ありのままの自分』
２０１５年　３月２８日（土）『働きやすい職場にするためには？』
２０１５年１２月　５日（土）『Ｒ－１グランプリ～支援エピソード編～』
２０１６年　３月１９日（土）『寛容と本人本位について』
２０１６年１２月　３日（土）『ピープルファースト横浜から学ぶ』
２０１７年　３月２５日（土）『オープンダイアローグ』
２０１７年１２月１６日（土）『かたるべ会「誕生から現在・そして未来」
－基本理念・カルチャーチェンジ指針の視点から－』
２０１８年　３月１０日（土）『かたるべ会の将来展望』
２０１８年１２月１５日（土）『「誕生から現在・そして未来
－相互理解、自分の人生を振り返ってみよう－』
２０１９年　３月　９日（土）『「誕生から現在・そして未来
－相互理解、自分の人生を振り返ってみよう－』
２０１９年１２月１４日（土）『かたるべ会　３０年の振り返り』

２０１９年度は３０周年事業として、ご家族面談・宿泊研修・記念パーティーを行ってきた。
そして、この職員全体研修が３０周年事業の総集編となった。
平野理事長と丹野副理事長が、かたるべ会が挑戦してきた活動を伝え、未来に向かって話をした。
「困っている人を助けるのは当たり前、我々の仕事は社会を作ること」

『かたるべ会　３０年の振り返り』

勤続２０年

交流会

障碍者の企業就労と生活を考える

企業、行政、学校、福祉関係者による交流会

２００９年１２月　４日（金）『「生徒との対話」を軸とした支援ができる組織づくり』
２０１２年　２月１０日（金）『社会的労働、職域開拓』
２０１２年　７月２０日（金）『発達障碍児・者の進路、就労、将来について』
２０１２年１０月２６日（金）『発達障碍者の就労支援、将来について』
２０１３年　１月３１日（木）『障碍者と向き合う』
２０１３年　７月　５日（金）『障碍者の恋愛、結婚、子育て』
２０１３年１２月　６日（金）『１年の振り返りと今後の抱負』
２０１４年　４月２５日（金）『たいせつなひとたち』
２０１４年　８月２２日（金）『ありのままの自分』
２０１４年１２月　５日（金）『ありのままの自分』
２０１５年　５月２８日（木）『必要とし合う関係』
２０１５年１０月２３日（金）『ありのままの自分』
２０１６年　２月１２日（金）『かたるべ会の取り組みと今後の方向性』
２０１６年　６月　３日（金）『ピープルファースト』
２０１６年１１月２５日（金）『「障害者」は実在しない！』
２０１７年　２月１７日（金）『私と福祉・共に生きる
～一つ屋根の下（ファミリーグループホームゆーとぴあ）～』
２０１７年　７月１４日（金）『相互理解』
２０１７年１２月　８日（金）『相互理解』
２０１８年　６月２９日（金）『これからの社会のあり方～仕事、生活、地域社会～』
２０１８年１０月１２日（金）『これからの障碍者雇用』
２０１９年　７月　５日（金）『相互理解～ご家族との面談から考える信頼関係～』

懇親会も兼ねて開催した交流会

グループワークの様子

創立１０周年記念パーティー

２０００年

○創立１０周年記念パーティー

８月　６日（日）　新横浜プリンスホテル

開設当初、「仕事中心のかたるべ会」は批判されていた。
１０年後、「仕事中心のかたるべ会」は高く評価された。
１０周年記念パーティーで、（当時）横浜市在宅障碍者援護協会、酒井理事長のスピーチ。
「当初、私は仕事中心のかたるべ会に対して否定的であった。
しかし、今思うと、仕事中心のかたるべ会は先駆的である。
今後も挑戦し続ける、かたるべ会であってほしい。」

創立２０周年記念パーティー

２０１０年

○創立２０周年記念パーティー　「感謝の集い」

１０月　９日（土）　ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

日頃、お世話になっている皆さんに感謝を伝え、
輝き人として企業で働く人や、結婚・子育てをしている人を紹介した。
バンジョークラブの演奏もあり、会場全体が盛り上がっていた。
参加者からは「楽しみもあり、学びもあるパーティーだった」という言葉もあった。

第3かたるべ社
グループホーム
OB

第1かたるべ社

INTERCONTINENTAL
YOKOHAMA GRAND

Culture Change

Culture Change
祝 20周年
祝 20周年
CASIO

祝 20周年
祝 20周年
CASIO

かたるべ会創立20周年『感謝の集い』
祝20周年

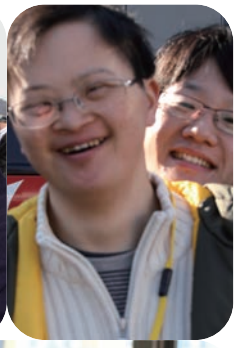
２０周年　宿泊研修

２０１０年

○宿泊研修　「認め合い、高め合い、一体感」

１１月２０日（土）～２１日（日）西伊豆土肥温泉　土肥ふじやホテル

一人ひとりの強みに注目し、ご家族とグループワークをし、
一人ひとりの強みに注目した“感謝メッセージ”を全員に配った。
小さい頃から、否定され続けている人は多く、良いところを認められ、
褒められる経験は、多くの人が初めてで、嬉しそうな表情が印象的だった。
ご家族も子どもが褒められるのは初めてのことで、感動して涙を流している人もいた。
この時の“感謝メッセージ”を額に入れて、飾っているご家族もいる。



歓迎
かたるべ会
20周年記念
御一行様

かたるべ会20周年

禁煙

３０周年　宿泊研修

２０１９年

３０周年事業「誕生から現在・そして未来」－差別・偏見から、相互理解へ－

○宿泊研修

９月２８日（土）～２９日（日）　勝浦ホテル三日月

昔の大変だった話（差別・偏見）や楽しかった話をご家族とグループワークをした。
世代を超えて、共通な話題もあり、ご家族同士で大変盛り上がった。
その中で家族間のコミュニケーションの必要性を感じ、特に父親のコミュニケーション、父親の参加が少なかったこともあり、後援会が父親の会を発足することになった。
地域社会で支え合うことはもちろん、家庭内で支え合うことの大切さに改めて気付いた。

社会福祉法人かたるべ会
30周年記念宿泊研修 様
34
17
47
19
1
12
35
34
CANTERBURY

30

MARBLE
CHOCOLAT
28

歡迎
社会福祉法人かたるべ会
30周年記念宿泊研修様
2019/09/28

2019/09/28

ご案内
社会福祉法人かたるべ会
30周年記念宿泊研修 様
二次会場 舟唄
2019/09/28

貸切

創立３０周年記念パーティー

２０１９年

３０周年事業　「誕生から現在・そして未来」－差別・偏見から、相互理解へ－

○創立３０周年記念パーティー

１１月　３日（日）　横浜ベイホテル東急

地域社会との相互理解をテーマに開催。
バンジョークラブや演劇も、プロのアーティストや役者と共演をする。
３０周年を振り返ったドキュメンタリー映像もプロの方からアドバイスをいただいた。
会場が一体となる演出もあり、相互理解を感じるパーティーとなった。
［３０周年記念取材動画］
https://www.youtube.com/watch?v=AhNvzTxlvjs&feature=youtu.be

かたるべ会 創立30周年記念パーティー

○かたるべ会後援会　会長　兼崎　建夫（写真左）

法人創立後、程なく後援会が立ち上がり、早や四半世紀が経過しました。法人の健全で発展的な運営を願う後援会として、３０周年を迎えた法人の姿に先ずは敬意を表したいと思います。会員の高齢化が進み、親（家族）亡きあとの利用者の生活について切実に心配する声が多くなりました。今後の後援会活動の課題です。

○自治組織　ナチュラルファースト会長　佐久間　健次郎（写真右）

私は今までホームレスでしたけど、かたるべに出会えてとても嬉しかったです。なぜならば、家や食事があってとても嬉しかったですし、楽しい生活です。かたるべに入りまして、人と出会いや仕事がありまして、すごく嬉しいです。日々、毎日かたるべに来るのが楽しいです。
ありがとうございます。

社会福祉法人かたるべ会

〒２２６－０００３　横浜市緑区鴨居１－８－６

TEL　０４５－９３５－７６９９　FAX　０４５－９３５－７６６５

MAIL　ktrb-00@katarube.com

HP　http://www.katarube.com